

令和5年度 第2回 大垣市図書館協議会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和6年3月1日（金） 14時～15時15分
- 2 開催場所 大垣市立図書館3階 会議室
- 3 出席者（委員）
田村弘司会長、石橋豊之副会長、横山幸司委員、
高木美保委員、佐久間理恵委員
（事務局）
平松教育委員会事務局長、橋本図書館長、
大江図書館主幹、長瀬図書館主幹、早崎図書館主幹
- 4 欠席者（委員）
近藤則朗委員、高木佐知子委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 次第
 - (1)議題
令和6年度の事業計画（案）について
 - (2)報告
令和6年度 図書館利用者アンケート調査の実施について
 - (3)その他

1 開会 14:00

(事務局)

令和5年度 第2回 大垣市図書館協議会を開催する。

2 あいさつ

(事務局長)

本日は、年度末多忙の中、図書館協議会にご出席いただき、お礼申し上げます。

今年度、図書館ではエレベーターの改修工事を実施し、工事当初に3日間臨時休館したが、利用者の皆さまのご協力により工事は順調に進行し、12月に無事に完了した。

また、NHK大河ドラマ「どうする家康」関連事業として、所蔵品展「徳川家康といくさ展」を実施し、清水進先生による講座「徳川家康と大垣」を開催し、多くの方に好評をいただいた。

本日は、「令和6年度の事業計画（案）について」と「令和6年度図書館利用者アンケート調査の実施について」を報告させていただくが、委員の皆様から貴重な意見を賜り、今後の図書館運営に活かしていきたいため、忌憚のない様々な発言をお願いしたい。

(会長)

本日は、高校の卒業式があり、私も出席してきた。今の高校3年生は中学生の時からコロナ禍により苦しい学校生活を強いられ、修学旅行などの学校行事への影響も多々あったが、よくがんばってきたと思う。今年の卒業式は、保護者も参加され、卒業生の答辞を在校生が聞くことができる従来の形に戻ったが、こうしたことはとても意味のある大事なことだと思うし、普通のこと普通に行われることのありがたさを実感した。

今年は元旦に能登半島地震が発生し、たいへん厳しい年のスタートとなったが、今も各地で地震が発生しているため、地震のない平和な暮らしができればいいと思う。

3 議題(1) 令和6年度の事業計画（案）について

↓

(委員)

SNSの活用に関して、大垣図書館ではFacebookやInstagramを開設しているのか？また、フォロワー数はどの程度か？

(事務局)

Facebook、Instagramともに開設しており、Facebookのフォロワー数は170名ほど、Instagramは、Facebookの開設後に始めたが、順次フォロワー数が増えている。

(委員)

図書館予算の人件費の増加について、先ほど業務量の増加に伴うものと説明があったが、人員も増えるのか？

(事務局)

人件費について補足すると、会計年度任用職員の業務量の増加のほか、人事院勧告に伴う職員給与や手当の上昇分なども含まれているためであり、人員が増えるわけではない。

(委員)

図書館見学について、日本語学校へ通っている外国人15名ほどを対象とした見学を受け入れたと先ほど説明されたが、その他はどのようなグループが利用しているのか、これまでの実績を教えてください。

(事務局)

日本語学校へ通う外国人を対象とした図書館見学はレアケースであり、通常は小学2年生が、2学期に図書館を勉強するために訪れることが多い。今年度は、図書館エレベーター改修工事の時期と重なっていたため、受入ができなかったが、令和4年度は15校の図書館見学を受け入れている。

(委員)

大垣駅北市民サービスセンターに図書返却ポストを設置したことは、通勤・通学の方も利用でき、大変便利だと思うが、利用実績はどうなっているのか？

(事務局)

週に3回（月・水・金）、大垣駅北市民サービスセンターへ返却本の回収を行っているが、少ない時でも30冊ほどの返却本があり、多い時は100冊以上の返却本がある。

(委員)

図書館を震災時の避難場所や子どもの受入場所にしたところがあるらしいが、今後の検討してみてもどうか。被災地に支援物資として本を送る行為は、

受入側の体制が整わず迷惑となるようだが、被災者が本のある場所へ行けるのは良いことだと思う。震災により勉強する場所もなくなった場合、大垣の図書館は学習室も備えているため、有効な場所になると思う。

以前にスイトピアセンターの駐車場の利用方法の変更について報告されたが、その後の方針決定や駐車場運営の管轄はどうなっているのか。

また、対面朗読についての取り組みはどのようなものか。

(事務局)

図書館を避難場所とする災害時対応について、そうした事例も参考にして、今後の研究材料としていきたい。

スイトピアセンターの駐車場については、現在の前払い方式を後払い方式に変更し、利用時間2時間以内は無料となる予定である。運用方法の変更に伴い、機器入替工事があるが、今年10月頃に変更する。スイトピアセンター駐車場の管轄・予算は文化振興課となる。

対面朗読は、視覚障がいのある方に個別に声かけをしており、昨年度は1名の方を対象に実施した。

(委員)

「図書館デジタル利用カードシステム」とは、誰でも簡単に利用できるものなのか。

(事務局)

スマホで図書館ホームページにアクセスし、利用券番号とパスワードを入力してログインすれば、バーコードが画面に表示されるため、それを図書カードとして利用でき、本の貸出が可能となる。このサービスはカウンターでも案内しており、利用されている方も増えている。

(委員)

今はさまざまなカードがあるので、何種類もカードを持ち歩かずに済むのであれば便利である。多くの利用者に浸透して広まるよう、さらなる宣伝をお願いしたい。

(委員)

青墓小学校にとって市立図書館は遠い存在だったが、今年度も図書館から「お楽しみ袋(2冊セット)」を全校生徒分(370名分)を届けてもらったところ、子どもたちにとっても好評だった。好きな本は偏りがちになるが、選定してもらった本にはまった子がいたり、低学年の子が集中して本を読んだり、6年生の

子がふだん読まないジャンルの本に魅了されたり、子どもの読書習慣に良い影響を与えたと思う。「お楽しみ袋」は丁寧に梱包されていて、司書の方は準備が大変かとお察しするが、子どもたちはワクワクしながら選んでいたし、本校の学校司書もこうした取り組みの継続を望んでいるため、図書館へ感謝を申し上げるとともに、来年度もよろしくお願ひしたい。

(事務局)

前もって連絡をいただければ、また対応させていただく。

(委員)

「お楽しみ袋」はとても良い事業であるし、学校にとってありがたいことだと思う。子どもの読書習慣に良い影響を与えている成果が出ているので、司書の方の苦勞も報われるのではないだろうか。

また、図書館見学という体験学習を通じて図書館を訪問すれば、図書館をより身近に感じられるようになるため、こうした機会が学校で増えると良いと思う。大垣市の子どもたちにとって県図書館は遠いにせよ、せめて市立図書館は小学生の時に一度は訪問したことがあるという状況になってほしい。

4 報告(1) 令和6年度図書館利用者アンケート調査の実施について

↓

(委員)

アンケートの実施について、回答者の年代の偏りをなくすため、なるべく幅広い年齢層を対象に実施すべきだと思うが、比較的若い世代が利用すると思われる図書返却ポストのある場所で実施できないか。または、予約図書配本サービスの利用者を対象に実施できないか。

(事務局)

図書返却ポストは、図書館で本を借りた人が利用しており、そうした方たちに対しては、本の貸出時にアンケート用紙を渡している。その他は回収方法に課題があるため、今のところ実施していない。

(委員)

上石津図書館は調査対象者数が少ないが、何か理由はあるのか。

(事務局)

上石津図書館は利用者がほぼ固定されており、利用者数も少ないことから、調査対象者数を少なくしている。

(委員)

「読書メーター」「読書ノート」「読書手帳」について、利用者の方たちにこうしたサービスを周知しているのか。

(事務局)

「読書メーター」は民間が運営するサイトであり、図書館のホームページにリンクを貼り、そこからサイトに飛ぶよう設定している。外部サイトのため、利用者数は把握できないが、インターネットを利用される方は常に目にされているし、カウンターにおいてもチラシで案内をしている。

「読書ノート」と「読書手帳」は読んだ本の記録を付ける冊子であり、前者は子ども用、後者は大人用となっている。総合カウンターでもサンプルを展示し、希望者に配付している。

(委員)

こうしたサービスがあるのを知ってもらえれば、図書館の利用率の向上にもつながり、読書への励みにもなるので、今後もPRをお願いしたい。

利用者アンケートの中に電子書籍についての設問があるが、電子書籍の拡充について、どのように考えているか。

(事務局)

電子書籍にかかる設問について、昨年度も利用者アンケートで同様の設問で実施したところ、「紙媒体と電子書籍と内容が同じ場合、どちらを選ぶか」という問いに対し、約8割の人が紙媒体と回答していた。一方、「電子書籍を利用して一番読みたいジャンル」について一番多かった回答は、マンガであった。電子書籍に関する設問の回答について、今後どのように推移していくのか利用者意識の動向を見ながら、対応について検討していきたい。

(委員)

大学生の状況を見ていると、タブレット端末を持っていないとスマホで電子書籍を見ることになるが、正直見づらと思う。電子書籍の市場においても、マンガは伸びているが、小説などは微増の傾向があり、そうした傾向が利用者アンケートの結果にも出ているような印象を受ける。

(委員)

大野町の小学校では「School e-Library」(小中高等学校向けの電子書籍の定額制読書サービス)を購入して、子どもたちはタブレットで本を選んで読んでいた。小学校の低学年から高学年まで、それぞれのお薦め本なども表示され、子どもたちはそれを読んでいた。Wi-Fiの接続環境が悪いとフリーズすることもあったが、タブレットの中で自由に本を選べる便利さはあった。

(委員)

コロナ禍の時に、学校教科書の著作権の問題があったため、オンラインでの授業ができなかったことがあり、デジタルの分野においては、著作権の課題をクリアーするのが難しいのかなと思う。

(委員)

公共図書館が導入する電子書籍は著作権の問題はクリアーしているが、導入にかかるコストが高価なため、電子書籍と紙媒体の本と比較・判断した結果、電子書籍を導入する自治体もあれば、導入しない自治体もある。

閉会 15:15